

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2994900047		
法人名	社会福祉法人 室生会		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	奈良県宇陀市室生大野1685-2		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の外出などおこない、自然と触れ合う機会を作っている。外出が困難なケースでも、近くにお寺がありゆっくり散策していただける環境がある。サクラや紅葉など自然に触れてもらったり、五感に訴えかけられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は昭和64年より地域に根付いた福祉活動をしておられます。当事業所は開設から4年目を迎えており、駅の近くで利便性を備えつつ、自然豊かな環境の中にあつて、利用者はゆったりとした時間を過ごしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を設定し、見える場所に掲示して、理念に沿った介護ができるように意識づけをしている。	事業所内に理念を掲示すると共に、朝のミーティングで定期的に理念の確認を行い、職員間で共有してケアにあたっておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を廻していただき、地域のイベントや奉仕作業に参加させていただいている。	昨年より自治会に加入し、利用者も一緒に地域の活動に積極的に参加されています。地域の秋祭りで子どもみこしが近くまで来てくれたり、小学生が訪れるなどの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の地域事務所にパンフレットを置くなどしている。地域の奉仕作業のときなどに、グループホームがどういう施設か説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長、民生委員にも参加していただき、多方面から意見が頂けるように実施している。	日程調整の都合により、会議は年に2～3回の開催となっています。会議では家族・市役所・地域包括支援センター・介護相談員・区長・民生委員などが活発な意見交換をされています。	日程を工夫し、運営推進会議が2ヶ月に1回定期的に行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GHでの受入や、介護保険に関する問い合わせなど随時おこなっている。	市役所とは電話連絡などで日頃から協力体制を築いておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止している。また、ベッドの柵などで、拘束にならないように配慮している。	入職時に身体拘束について説明し、県での研修などがあれば参加して職員全員で知識を共有されています。	身体拘束について職員間で意識の共有を図るため、定期的に研修が行われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体の確認をおこない、外傷がないか確認をしている。また虐待に関する教育をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	宇陀市多職種連携の会に参加し、介護予防・日常生活支援総合事業の概要について説明を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険改定や、消費税増税などによる料金の変更、そのほかサービス利用料金の変更について、説明後、文書と捺印によって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン交付時や、面会時に意見をうかがったり、ご利用者の状態について相談するときに伺うようにしている。	面会時や電話連絡時などに意見や要望が出やすいように、普段から話しやすい関係作りに努めておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合いの場を設けて、意見交換できる場をもうけている。また参加できない職員のために、意見箱を設けている。	意見箱も設置されていますが、職員同士が話しやすい関係作りをされています。また、職員の要望にはそのつと対応されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員処遇改善加算を給与に反映している。資格に応じた手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設け、対象者のレベルに応じて、受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇陀市多職種連携の連絡会に参加し、情報収集、意見交換をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	GH入居前の生活環境を考慮して、本人の希望する生活をうかがっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の前に、ご家族からご本人との関係や、問題について伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	退院後、ADLが低下していたため、訪問リハビリを紹介して、ご利用頂いた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を通して、職員と一緒に掃除、洗濯、買い物、レクレーションをおこなうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に、外泊と面会に制限を設けていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得て、馴染みの人や親類の面会を自由にいただいている。	基本的には家族の対応ですが、利用者の要望を家族に連絡するなどの支援をされています。また、行きつけの美容室などの送迎は職員が対応されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	野菜作りや、レクなど共同作業ができるような機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、新たに入居された施設先でのケアについて、相談を受けている。また医療機関退院後の入居についても検討している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において、要望や思いなど、本人からヒアリングし、できるだけ実現できるように検討している。	普段の何気ない会話の中で要望などを汲み取り、対応するように努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、担当ケアマネや家族から、ヒアリングを通して、家族を含む、それまでの暮らしと、生活環境について確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の担当者をおき、各種記録などから日常生活をモニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人や本人の意向をうかがい、ケアプランを作成している。	日々の記録から課題を抽出し、ミーティングなどで職員が意見を出し合い、ケアマネジャーがまとめて家族に確認し、計画を作成されています。また、利用者の実情にあった援助が出来るように、そのつど話し合っって計画を修正されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態が変化したり、新しい要望など発生した場合は、家人と相談しながら、ケアプランを修正、反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活品の購入／めがね・時計の修理や法事の準備の支援など、ご利用者やご家族の要望に出来るだけ対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容、内科、歯科、小売店など地域のサービスを利用している。また、小学校の地域学習で交流した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者ごとのかかりつけ医に往診、若しくは、受診していただくようにしている。	それまでのかかりつけ医は、基本的には家族と受診されますが、事業所に近い医院や歯医者へは職員が受診支援をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の状態に変化のあるときは、かかりつけの医療機関に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーを送り情報を伝えると共に、かかりつけ医に連絡するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際について、家人と相談しGHでの対応を検討している。	重度化した場合は、その都度家族や医療機関と話し合いながら、方針を決めておられます。看取りについても前向きに検討されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成し、対応手順化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災説明会に参加し、避難場所について確認した。警戒避難マニュアルを作成中である。	年に2回、利用者も一緒に避難訓練を行っていただけます。備蓄は水や食料、防寒具を用意されています。	消防署との連携や地域住民の参加も検討中とのことですので、今後、実現されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	孤立したり、不安や興奮状態に陥らないよう、声かけをしている。	管理者が声をかけたり、職員同士で注意しあうなどして、利用者への声掛けに配慮されています。また、職員間でも話し合いの場を持ち意識の共有を図っておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を選べるようにして、自己決定しやすいようにアドバイスしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活であるが、個々の生活要望が反映できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者ごとで、毛染めやパーマなど自由にして頂き、服など必要に応じて買い物にいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や台拭きなど手伝って頂いている。また、定期的に、昼食の調理をおこなっていただいている。	食事は献立や食材を外部委託されていますが、盛り付けや味見などを利用者にしてもらうことで、食事作りへの参加を支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、全員に配茶をしている。好き嫌いなど把握して食べやすい食事を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	上手に磨けない方にも、食後のうがい、磨きやすいブラシの選定、歯磨き介助をおこなっている。義歯の洗浄を毎日おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態に合わせて、リハビリパンツやポーター利用を促し、トイレにて座って排泄できるように支援している。	トイレに座って排泄する事を重視してケアにあたっておられます。個々の排泄パターンを把握して、トイレに誘導するよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックやヒアリングから、便秘を把握して、ご利用者ごとに、頓服薬や浣腸などで定期的な排便に努めている。また、体操や運動を奨励している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤などで楽しんでいただいたり、皮膚疾患がある方には、保湿剤で入浴いただくなど、個別に対応している。	入浴日を決めずに午後から入浴支援をされています。入浴を拒否される方には、入浴を楽しめるよう入浴剤を使用するなどの工夫をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠しやすいように、環境を、うす暗く、静かで落ち着いた雰囲気を整えるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者の薬は、配薬表でチェックしている。またご利用者の状態に応じて、医療機関に相談連絡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で、楽しみが持てるように、個人で望まれるものを提供している。また、新たに楽しみを作れるように検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出や散歩など、支援している。また、家族との外出も奨励しており、外出される際は、お薬、パットなど必要なものを用意している。	外食で回転寿司に行ったり、スーパー、雑貨店、散髪などの外出支援もされています。また、月に1回法人の音楽リハビリにも参加されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	条件付でご家族の了承のもと、希望されるご利用者には小額のお金を、自分で管理いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を自由にして頂いている。また、手紙を読んだり、代筆なども必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座席位置を調整して、ご利用者の負担にならないように調整している。また季節の草花などを飾り、季節感を感じれるようにしている。	共用空間は清掃が行き届いています。また、季節を感じられる適度な装飾で家庭の雰囲気を大切にされ、穏やかに過ごせる場所が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置など検討し、ご利用者同士の交流がしやすいように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自宅で慣れ親しんだ日用品を持ち込んでいただくようにしている。また家具類も使いやすく配置を、自由にしていただいている。	個々に応じた居室となっており、居心地良く生活しやすい空間作りを支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できないから」、「わからないから」、しないではなく、負担にならないよう「できるようになるか」「わかるようになるか」を考慮しながら支援している。		